

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571500162		
法人名	医療法人社団一栄会		
事業所名	グループホームよしだ		
所在地	新潟県糸魚川市横町5丁目9番12号		
自己評価作成日	令和3年5月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様の自然体が出る雰囲気作り、共同生活における活動をとおして「ほりあい」「生きがい」を感じていただくことを大切にしています。
・季節を感じていただくよう、季節に合わせた壁の装飾、作品の製作等を行っています。
・気分転換や季節を感じていただけるように併設された畑での農作業や散歩、外出を取り入れています。
・同一敷地内に併設病院があり、利用者の状態によってすぐにも受診が可能であり、医療および健康管理面において安心して生活していただけます。
・利用者の”出来るチカラ”を引き出せるよう創意工夫し、個人の生き方や価値観を大切に生活支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームよしだ」は、糸魚川市内で整形外科を中心に医療事業を展開する医療法人により、2000年2月に開所した、22年目となる歴史のある事業所である。
事業所の特色としては、まずひとつめに、家族との関係作りへの積極的な取り組みがある。毎月A4版の事業所便り「ちゃんまいる」に事業所の出来事や利用者の様子等をわかりやすく記載し、家族に送付している。通算241号以上となり、その積み重ねに事業所としての強い思いが感じられる。
特色のふたつめには、利用者を知ること(アセスメント)に積極的に取り組んでいることがあげられる。センター方式のアセスメントシートを利用し、入居後に知り得た情報を追記しながら、介護支援計画書の更新に合わせて半年毎にアセスメントシートを新規作成し対応している。大変な事務作業ではあるが、管理者の指導により、利用者への支援に必要な事項として職員の中で認識されている。
コロナ禍で様々な交流や面会及び活動の制限や中断がある中で、アフターコロナを見据えた様々な企画が職員からも出されており、その20余年に及ぶ経験の積み重ねと利用者に向けた視点において、今後の進展が益々期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの生活歴を振り返り生活の質の向上につなげます。地域との関係作りに努め、気軽に立ち寄れる開かれたグループホームを目指します。」の理念に基づき、職員が個々の利用者に対して計画を立案、実行している。	設立当初の理念を基本としながら、その理念をよりわかりやすく具体化した「職員理念五カ条」を作成している。五カ条は事務室に掲示すると共に、職員会議等の中で理念の確認と共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の盆踊りに地域の方々に参加いただいたり地区の老人クラブと交流していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として他者との接触を自粛しており、地域との交流を中断している。	以前は、中学校職場体験の場の提供や同一敷地内にある保育室との交流、地域包括支援センターと協働した認知症サポーター養成講座(出前講座)企画等積極的に地域と関わってきたが、コロナ禍でほとんどの企画・交流が中止されている。	コロナ収束後は近隣住民を招いてのワンコイン昼食会を企画したい等、アフターコロナを見据えた構想も出されている。事業所を広く理解してもらうことを目的として法人広報紙を近隣地町内会に回覧してはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別支援学校の作業学習や中学校の職場体験学習の受け入れを行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として受け入れを中断している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面会議とし、利用者の状況やサービス提供等の報告書を各位に送付し、いただいた意見や質問は全職員が共有し、次回の運営推進会議の報告書で各位に周知している。	利用者、家族、老人クラブ会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、管理者、法人本部職員のメンバーで構成され2カ月に一度定期開催してきたが、コロナ禍により現在は書面会議の形で開催している。議事録はファイルされ誰でも閲覧できるようにしている。	アフターコロナを見据えた中で、より運営推進会議を活性化するために、地区会長等を構成メンバーに加えてはどうか。また家族から会議に関心をもってもらうために事業所広報紙に会議の内容を記載する等の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員と地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の取り組みを伝え、意見をいただいている。また、併設の包括支援センターの担当地区内にあるので、連絡を密に取っている。	行政担当職員が運営推進会議にメンバーとして参加すると共に、事業所側からは行政主催による地域密着型サービス連絡会にも出席しており、日頃から顔の見える関係作りを構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で、身体拘束廃止委員会を設け、勉強会を開催し理解と認識を高め日々のケアにつなげている。中玄関の施錠は職員の体制上やむを得ない時を除いてしていない。	マニュアルが整備され「身体拘束廃止委員会」が設置されており、定期的な研修の機会を設けている。センサー使用の実例はあるが、期間を限定し一定の期間ごとに廃止に向けた評価を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が職場内で伝達講習を行い、全職員が理解を深めるとともに防止に努めている。	マニュアルが整備され、外部研修を含め定期的な研修が行われており、何をして虐待であるのかを学んでいる。毎年10月に法人主導でのストレスチェックが行われ、職員の精神衛生に向けた取り組みが始まっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員と連携し、必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、文書に基づいて十分な説明を行ったうえで、利用者や家族の意見もうかがい、手続きをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員の良好な関係が構築されており、率直な意見を聞くことができる。自身の思いを表すことが出来ない利用者に対しては日々の言動より意向を探り、検討しより良い関係作りや運営に反映させている。	コロナ禍以前は年2回、家族会の活動日を設ける等、家族との意思疎通を積極的に図ってきたが、コロナ禍の中では直接的な交流も中断されている。そうした中、昨年9月に家族向けアンケートを実施し、オンライン面会の要望もあり、実現化している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は介護職も兼務しており、日常業務の中で職員との意見交換を行い、運営に反映させている。	2カ月に1回の頻度で職員会議を開催してきたが、新型コロナウイルスの影響で昨年5月～今年3月まで職員会議の開催を中断している。ようやく今年5月から再開し、管理者は日常業務に関わりながら、職員との対話を一層心掛けてきた。法人の動きとして年度末に職員との個別面談を行う仕組みが作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が職員の努力や実績を評価し、意欲向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に講習を受講できる環境にあり、研修参加後に職場で報告、情報を共有している。グループホーム職員での勉強会と法人全体学習会があり積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインツールを用いて他事業所との情報交換会を実施し、感染症対策やコロナ禍でのサービス提供について情報交換の機会を設け、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた際は話を傾聴し、本人の心身状態や思いと向き合い、受け入れられるような関係づくりを心がけ、安心して利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をゆっくり聞き、求めていることを理解して次の段階への相談につなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を把握、一番必要としている支援を見極める。それを元に改善に向けての柔軟な対応を行い、時には他のサービス事業者につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルたたみや、洗濯物干し等の家事活動を依頼している。畑での野菜作りや、山菜の調理法などの知恵をアドバイスしていただいている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談事には常に耳を傾け、一緒に本人を支えて行くための情報を共有している。	受診や理美容等は原則家族の役割としているが、コロナ禍で家族との面会・交流が著しく制限されることに悩んでいる。月1回発行されている事業所広報紙「ちゃんまいる」には、たくさんの情報を盛り込み家族から事業所への関心をもってもらえるよう積極的に発信している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を尊重し、大切な人、場所、物を写真で部屋に飾ったりしている。郵便物等が到着した際はご本人とご家族へ電話をかけ会話の機会を増やすよう心掛けている。	コロナ禍以前は、ドライブ等で利用者の自宅近くや働いていた工場へ出掛けたり、馴染みの理美容室へ出掛けていたが、現在は隣接する老人保健施設の床屋さんが事業所に出向いている。アフターコロナでは早く馴染みの理美容室へ連れて行きたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴等で孤立しがちな利用者は、職員が間に入り周囲とのコミュニケーションを図っている。性格が合わない利用者どうしにはパーテーションを利用したり、活動時間をずらす等の配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談をうけており、関係する施設や事業所との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に私の姿と気持ちシート(センター方式より)を活用し意向の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシート「c-1-2シート」を介護支援計画の更新に合わせて半年毎に毎回記入し作成している。入所後の経過の中で変わっていく微妙な利用者の思いの変化を的確に捉えるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に私の暮らし方シート(センター方式より)を活用し、ご本人や家族に今までの生活やどんな活動を好むかお聞きしてサービスにつなげている。	センター方式のアセスメントシート「B-3シート」を利用し、入居前に家族から記入をお願いしている。入居後に新たに知り得た暮らしの情報は、介護計支援画の更新に合わせて半年毎に毎回新規作成することで対応し、生活歴をサービス内容に活かせるよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを把握して、できることに視点をおき、力を発揮していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から思いや意見を聞き、その人らしさを介護計画に反映させている。又、状態の変化に応じ計画の見直しや検討を行っている。家族には細やかな状態変化や状況をこまめに報告、相談している。	介護支援計画は基本半年毎に作成し、状態変化時にはその都度対応している。アセスメントと介護計画素案については居室担当職員が行い、それを基に計画作成者が介護支援計画を作成している。コロナ禍でサービス担当者会議に家族からの参加は難しくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や状態変化など個別の記録や連絡ノートを用い全職員が情報を共有できるよう徹底している。又、それらを介護計画の見直しや評価にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の支援を行い、個々の安心、信頼、満足を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地域包括支援センターと連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医となっている。受診や通院は家族同行となっているが、訪問診療に来てもらうケースや本人が希望する医療機関への支援もおこない複数の医療機関と関係を築いている。	大多数の利用者が、入居時に主治医を同一敷地内にある協力病院へと移行している。精神科受診は職員が付添を行い、他の医院への受診時家族に医療情報の連絡メモを持っていってもらっている。必要に応じて職員も同行するなど、適切な医療につなげるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師、地域包括支援センターの保健師等との連携体制ができており、利用者の状態に応じて適切な受診等の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へ情報提供をしている。医療機関関係者と連携し、安心して治療できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より本人の思いを傾聴し家族の面会時や通信時に家族の意向を伺う等の情報交換を行い方針を共有している。その情報を看護師、地域包括支援センターに伝え連携を図っている。	これまで看取りの事例はない。事業所として出来ること、出来ないことを家族に説明した上で、家族の思いや職員の負担を勘案しながら個別に対応してきている。同一敷地内に老人保健施設があることから比較的スムーズに移行がなされており、利用者本人及び家族の安心につながっている。	事業所として利用者の重度化や看取りの事案に対してどのように向き合っていくのかを示したものが指針である。家族及び職員にもわかりやすく、具体的な内容であることが望まれる。また重度化に際しての職員の意識の共有への更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えての応急手当を学び職員全員が身につけている。又、応急後の連絡体制もできている。	マニュアルが整備され、救急救命対応の研修も行われている。ヒヤリハット及び事故報告書については、それぞれ「リスクマネジメント委員会」と「事故対策委員会」において要因分析シートでの検証が行われ、再発防止に向けた取り組みが図られている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練に年2回参加している他、事業所単独で火災や水害など設定を変えて数回行っている。災害時の対応は法人全体の自主防災組織で対応する体制になっている。	同一敷地内の事業所間で自主防災組織を作っており、お互いに支援できる体制作りを模索している。マニュアルが整備され、年2回の防災訓練も実施されている。ハザードマップでは近くの河川の洪水地域に指定されており、事業所の2階へ避難する取り組みも実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム会議やミーティングなど日常的にプライバシー保護について確認しあい、本人を傷つけないよう言葉かけや対応に努めている。	マニュアルが整備され、接遇及び個人情報保護の研修が行われている。管理者は、職員と利用者との会話が必要以上にフランクにならないよう特に配慮しており、利用者一人ひとりの尊厳を損ねないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が少しでも自己決定できる場面に努め、意思表示の困難な方には表情の読みとりや本人の雰囲気やキャッチしながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが一人ひとりの体調や気持ち、要望に配慮して、個別性を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣にあわせた支援を行い、美容院は家族の理解協力のもと馴染みの所でカットや毛染めをしてもらえるよう連携をとっている。または併設老健に出張で来られる理容師を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の調理や食事準備への参加は中止している。 誕生日の利用者には希望するメニューを提供し、利用者と職員でお祝いをしている。	職員が献立を作成しており、定期的に同一敷地内にある老人保健施設の栄養課からアドバイスをもらっている。職員は同じメニューを利用者と同じテーブルで食べ、食事場面の共有を図っている。出来る能力に応じて食事準備にも参加しており、コロナ禍で外食の機会はなくなったが、事業所内での食事を楽しむ取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録に残し、職員が情報を共有している。個々の一日の食事摂取総量等をおおよそ把握出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じた見守りや介助を行っている。就寝前は義歯の預かりや洗浄を行うなど本人を配慮しつつ清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の生活リズムにあった対応を行っている。疾病等による一時的なオムツ利用の場合もトイレ誘導等により回復支援に努めている。	各利用者の排泄のリズムを把握するように努めている。全員が紙パンツを利用しトイレでの排泄をしているが、足腰の弱った場合にはポータブルトイレを居室に設置する等利用者の安全・安心に向けた対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分量、食材の工夫や運動の働きかけにより、自然排便ができるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として曜日、時間帯を決めてあるが、職員配置人数によって入浴介助者を確保できるときは、利用者の希望に合わせて入浴を楽しんでいただけるように努めている。	利用者の特性や生活リズムを考慮しながら、概ね週2回程度の入浴となっている。入浴剤を変えたり浴室の壁面に紫陽花の写真を掲示したりと季節感を感じられるよう取り組んでいる。入浴しながら利用するには、時間帯や声をかける職員を変えて対応している。	利用者から夕方入浴の希望が出た場合や、在宅時に毎日入浴週間のあった方が今後入居してきた場合等、週2回の入浴頻度に拘らず、それまでの生活の継続の視点を持ちながら、職員間で支援方法を検討いただくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や状況に合わせて、日中の活動を促して、安定した生活リズムを作り、安心して休息や安眠に繋がるよう努めている。時には不穏な状態が続く場合などは家族と相談のうえ医師と相談も行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握出来るように、また受診等において医療関係者に返答できるよう既往歴、現病なども服薬ファイルに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、軽作業など各々ができることをお願いし、感謝の言葉を伝えることにより、できることの実感や生き甲斐となる楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外での活動は、感染対策のため中断している。流行の状況によっては感染対策を十分に持って散歩や隣接する畑での活動することもある。	現在はコロナ禍の中で自由な外出支援はできないが、それまでは春の桜見物や、地域の紫陽花園、温泉地の足湯等、半日ドライブを定期的に行ってきた。現在は事業所隣の畑作業を兼ね屋外に出ている。職員の中からは、アフターコロナでの生活様式をふまえて事業所らしい小回りのきいた外出をする企画も出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと少額を手もとに持っていたいでいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも買い物や自動販売機などでお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内には公衆電話が設置されており、家族や知人などに自ら、又は職員に依頼して電話をかけることができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面の装飾をしている。行事で使用した物などで部屋を装飾している。また、調光やテレビの音量は常に職員が配慮し、調整している。五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	華やかな装飾にならないよう配慮されている。ホールの隣に古民家から移築した大きな梁のある和室があり、天井の高さとあわせて開放感を感じられる。玄関近くにはベンチも設置され、少人数になれる居心地の良い空間作りの工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の席以外にもソファや長イスなどで、くつろぐことが出来るスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた品物や好みのもを持ち込んで頂き、安全面にも配慮しながら使い勝手がよいように配置などの工夫にも努めている。	全室畳敷きにベッドがおかれた居室であり、居室には家族の写真や仏壇、趣味のカメラ等を持ち込まれ、利用者それぞれの生活感が感じられる。居室でテレビや編み物を楽しむ利用者もあり、居室が利用者にとって寝るだけの部屋にならないよう心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置され、自立移動がとり易い環境となっている。個室内も活動性が維持できるように安全に配慮しながら配置の工夫を行っている。トイレ位置などは案内板を設置し、安心できる環境づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				